

質 問

まち・ひと・しごと 創生総合戦略の評価、改善策は

大垣照子 議員

町長 KPI等5段階評価し、
現状を取りまとめた



問 まち・ひと・しごと創生総合戦略と若者定住について、同総合戦略は3項目20施策を掲げ、年度ごとにPDCAサイクルによる評価を行い、次年度の改善に繋げるとしているが、平成27年度の評価と改善策は。

答 27年度の内部評価を行い、KPI(重要業績評価指数)等5段階で評価し、目標値に対する現状を取りまとめた。

外部評価委員会では、KPI達成に有効な取り組みが進められているが、個別事業については、様々な意見をもらった。

具体例として継続し活動支援事業は、行政、民間の更なる協力で内容の発展が必要との意見があ

り、町内企業交流会等の取り組みを進めた。

また、横田高校の施設整備について、町の支援をとの意見を受け、県知事に増室要望を行った。

29年度当初予算編成に向け事務・事業の見直しを実施し、指摘事項の改善を逐次進めていく。

問 魅力がないと若者は定住しない、Uターン者への行政の対応は来るまでいいが、住んでみると対応が悪くなる。

定住には対応を良くすること、そして若者定住と仕事はセットで行う事、企業誘致の進捗状況は。

答 ㈱ニッポアの生産体制の強化、研究開発拠点新設の立地計画が認定された。今後3年間で7人の雇用増が見込まれ、Uターン者の受け皿として期待される。

Uターン者対象の合宿も行った。現在、Uターン1社と誘致交渉を進め、決定すれば報告する。

また、移住、定住希望者に町は無料職業紹介所

を設置運営し、ふるさと島根定住財団、ハローワークとも連携し、Uターン後の安定した生活支援を行っている。ワンストップサービスも実施したい。

問 Uターン者は在宅可能な仕事で、家で子育てと両立できるフリーランスの仕事でもある、Uターン材の不足がいわれており、プログラミングできる人材確保により、若者定住に結びつけては。

答 プログラミングに強い人材確保は、非常に困難。Uターン企業の町内誘致交渉も進めているが、地元の人材を求める声もあり、県に協力を求める人材確保に努力したい。

問 プログラミングできる人材育成および確保の考えは。

答 プログラミングは高度な知識と相当の習得期間を要し、高い能力を持った講師が必要。今のところ費用、人材確保の面から、町での実施は考えていない。



子どもたちの笑顔、輝く未来を

問 職員一人でも学ばせ職務に役立たせることの考えは。

答 即答はできないが、検討したい。

問 本町を多くの人に知ってもらおうツールとして、ホームページの活用が有効、これをもっと充実させて、本町のコマーションを行ってはどうか。

答 開設から10年が経過し最新の閲覧ソフトへの対応や視覚障害のある方への発信の観点から、全面更新が必要。多額な費用がかかるが、今後検討したい。